

平成 28 年 第 6 回定例会

# 岩見沢市教育委員会会議録

平成 28 年 6 月 22 日 開会

平成 28 年 6 月 22 日 閉会

岩見沢市教育委員会

平成28年 第6回定例会  
岩見沢市教育委員会会議録  
(平成28年6月22日)

○本委員会に付議した議件

- 1 報告第7号 教育長の一般経過報告について
  - 2 報告第8号 公立高等学校配置計画案について
- そ の 他

○本委員会に出席した者

委 員 長	武 藏 輝 彦
委 員	秋 山 信 也
委 員	渡 邊 律 子
委 員	杉 野 幹 夫
教 育 長	舩 甚 和 俊

教 育 部 長	山 下 修
子育て支援推進担当次長	鈴 木 栄 基
学 校 教 育 課 長	加 藤 信 浩
指 導 室 長	兼 平 晃 成
学 校 給 食 課 長	町 田 隆
生涯学習・文化・スポーツ振興課長	相 河 学
教 育 施 設 課 長	清 水 誠 志
子 ど も 課 長	所 美 穂 子
図 書 館 長	杉 原 理 美
緑陵高等学校事務長	川 原 卓 也
事務局学校教育課総務係長	武 田 弘 毅
事務局学校教育課総務係	井 上 敬 太

午後4時00分 開会

○武蔵委員長 ただ今から、平成28年第6回教育委員会定例会を開催いたします。

本日の署名委員は、杉野委員さんをお願いします。

初めに、日程番号1、報告第7号 教育長の一般経過報告について 説明をお願いします。

○舩甚教育長 28年5月12日から6月11日における事務処理の概要について、ご説明申し上げます。

5月12日、ことぶき学園の開講式に出席しております。担当する係が頑張りまして、受講する人数が増えて来ました。すごくありがたいなと思います。また市民の学ぶ意欲も高まってきたと感じております。

14日に行われたキッズスポーツ教室では、今年も多くの子どもたちが集まってくれました。

16日、定例教頭会がありました。

19日、四国徳島県で行われました、全国都市教育長協議会定期総会に参加させていただきました。

25日に総務常任委員会、26日に高校の剣道選手権大会と小さな親切運動総会等があり出席しました。

30日、はまなすアート&ミュージックプロダクションの総会には山下部長が代理で出席しております。

以降は記載の通りとなっております。

以上でございます。

○武蔵委員長 ただ今、教育長のほうから、一般経過報告がございました。

この件につきまして、委員の皆様からご意見ご質問ありましたら、お願いしたいと思います。

特にございませんか。

(「はい」という声あり)

○武蔵委員長 特にないということでございますので、この報告については終了いたします。

続きまして、日程番号2、報告第8号 公立高等学校配置計画案について 説明をお願いします。

○加藤学校教育課長 報告第8号 公立高等学校配置計画案についてご説明をさせていただきます。

6月7日付で、北海道教育委員会が公表したものでございます。

1ページをお開きください。

主なものについてご説明申し上げます。

まず1ページでございますけれども、公立高等学校配置計画案、平成29年度から31

年度までの策定の考え方が示されています。

1 番目の趣旨といたしましては、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本といたしまして、中学校卒業者数の状況を踏まえ、学校・学科の配置や規模の適正化を図るため、平成 29 年度から平成 31 年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成 32 年度から 35 年度までの見通しを示したものでございます。

2 番目の中卒者数の見込みでございますけれども、北海道全体で平成 29 年は 4 万 5,618 人、続きまして 4 万 4,813 人、4 万 4,111 人となる見込みであるということでございます。

3 番目の基本的な考え方といたしましては、北海道教育委員会が、平成 18 年 8 月に示しました、新たな高校教育に関する指針に基づき、中卒者数の増減に適正に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら、定員の調整や学校の再編整備を行うとともに、都市部において、複数の高校が配置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行うということでございます。

また、生徒の多様な学習ニーズ対応のために次のとおりに新しい高校づくり等を推進するというところで、6 項目示しておりますけれども、今回それぞれの内容につきましては省略いたしますけれども、今回の岩見沢西高の 1 学級減の提示がございましたけれども、西高につきましては、(3) 単位制を導入しております。

2 ページをご覧ください。

大きな 4、配置計画案でございますけれども、昨年決定いたしました、平成 29 年度及び 30 年度の計画を一部変更いたしまして、また新たに 31 年度の配置計画を策定しております。

(1) の学級定員といたしましては、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律に基づきまして、1 学級の定員は 40 人としております。

また(2)では平成 29 年から 30 年度の変更でございますけれども、全日制課程では、アの学級増、平成 28 年度の入学者選抜の結果、第 2 次募集後の入学者に 1 学級相当以上の欠員が生じ、学級減を行った月形高校他 8 校につきまして、中卒者数の状況等を総合的に勘案して、平成 29 年度にそれぞれ 1 学級の増を行っているところでございます。

イ以下の説明は省略をいたしたいと思っております。

続きまして 3 ページをご覧ください。

(3) の平成 31 年度高校配置計画でございます。

これも全日制課程のア、学級減でございますが、学区ごとに、中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案いたしまして、岩見沢西高校ほか 5 校で 6 学級の減を行うということになっております。

イ以下、5 の地域キャンパス校の再編整備、6 の配置計画の変更についての説明は省略いたします。

4 ページをご覧ください。ローマ数字の2、公立高等学校配置計画案でございます。全道の状況でございますけれども、1の「中学校卒業生数」は、先ほども申しあげましたとおり、平成28年の実績は4万5,485人、以下29年から31年は推計でございますけれども、右側にあるとおり、それぞれ毎年減少していくということでございます。

2の「欠員の状況」でございます。これは平成28年5月1日現在の、全道の状況ですが、1番左側の公立高等学校全日制では、欠員が2,726人、かっこ書きは前年度の数字の対比でございますけれども、前年度からは97人減ってますけれども、2,700名あまりの欠員を生じておりまして、定時制や私立を合計しますと5,762名の欠員を生じてございます。

3の「定員及び中学校卒業生数に対する割合」でございます。平成28年度の欄を見ていただきたいと思っております。

公立の全日制で定員が34,220人、その他定時制から、私立まで合計しますと、49,340人となっております、1で説明いたしました中学校卒業生数の実数で割りますと割合としては108.5%ということになります。

その下の欄、公立高等学校配置計画案を進めた場合でございますけれども、平成29年度、平成30年度、平成31年度それぞれ記載されておりますが、それぞれの年度の下から2番目が定員で、一番右側の欄を見ていただきますと、平成29年度では49,700人、割合としては108.9%。それぞれ30年度・31年度も109.9%、111.1%ということになっております。

続きまして、5ページをご覧ください。

4、配置計画案の学校別の内訳でございます。二重丸の1つ目については平成28年度の状況でございます。先ほど説明したように、第2次募集の状況をみまして、月形高校につきましては、実質的な1学級減と平成28年度はなったところでございます。

その下の二重丸、平成29年度から31年度の全日制課程でございます。(1)学級増減の①学級増ですが、今後の中学校卒業生数の状況等を含めまして、総合的に勘案したところ、月形高校では1学級また戻しまして、1学級増ということになっております。それぞれ米印がついている学校については、平成27年度に策定した計画案の変更でありまして、空知南学区では月形高校が該当いたします。

②の学級減でございます。平成29年から次のページ6ページにまたがりまして、30年31年とございますが、31年度で、空知南学区では岩見沢西高校で1学級の減という計画になっています。

以下、(2)の再編整備から、次のページの②募集停止、あるいは(3)の単位制の導入などについては、説明を省略させていただきます。

続きまして9ページをご覧ください。

9ページ5「中学校卒業生数の推計及び推移」をご覧ください。平成35年までの推計が示されているところでございます。

一番上の空知南学区でございますが、上欄には中学卒業者数、下欄には前年比の増減数となっております。平成30年は一度増えますけれども、総じて前年からの減少が続く傾向になっているところであります。

10ページのグラフについては、説明を省略いたします。

11ページをご覧ください。

ローマ数字3、ここからは全道19学区ごとの配置計画案がそれぞれ掲載されてございます。

最初の11ページには空知南学区の計画案が示されてございます。小っちゃくて見づらんですが、一番上が学区内中卒者数、下が対前年比です。この内訳として、3行目に岩見沢市内での中卒者数と対前年比となっております。空知南学区と同様に平成31年からは、減少傾向、一部34年には一度増えますけれども、総じて減少傾向でございます。平成29年から35年までの増減数の合計は83名、また平成32年から35年までは58名の減ということになっております。

中段には、岩見沢西高校のところに、平成31年度に普通科で1学級減という案がございます。

また、平成32年度から35年度までの見通しについて書いてございますけれども、欠員の状況が続きますので、岩見沢市内及び岩見沢市周辺市町において、再編整備を含めた公立高等学校全体での定員調整の検討が必要であるということが示されております。

12ページ以降は他の学区でございますので説明は省略させていただきます。

なお、この公表を受けまして、去る6月14日に岩見沢市高校適正配置連絡会議を立ち上げ、1回目の会議を岩見沢市役所で行っております。この会議は、教育委員会が事務局となり、岩見沢市高校適正配置連絡会議規約に基づき教育・経済・市民その他の団体の代表から構成する組織であり、議会総務常任委員会、商工会議所、農協、それと市内4校の高校のPTA会長、また、岩見沢市校長会の適正配置担当の校長先生2人に委員をお願いしております。

連絡会議として、西高1間口減について今後どうするか意見統一を図りました。会としては反対として統一行動を行うということと決定しております。

それと今後の活動として、どのような活動をするかということで、直近では平成24年の岩見沢東高の間口減のときの対応を、連絡会議、市と、市教育委員会の、3団体連名で計画案の見直しに関する要望書を作りまして、行動を起こしていることから、今回につきましても、要望活動を行ってまいります。連絡会議の正副会長とも協議をして、どういう行動をしていくか、日程も含めて今後検討してまいります。

以上でございます。

○武蔵委員長 ただ今、報告第8号についての説明がございました。

この件につきまして、委員に皆様からご意見ご質問あったらお願いしたいと思います。

道教委からは、空知南学区については、児童生徒数の推移からみて3学級から5学級間

口減が必要になってくるということは言われてはいましたが、今回、具体的に西高の間口が減少するという事です。これまでも西高の6間口からスタートしていたのが2つ減り、岩東で1つ減りということで今まで3間口減らされてきている。今度で4間口目。教育委員会で諮ることではないのかもしれないのですが、子ども達、私たちが抱えている小中学生がこれから進んでいく高校のことなので、しっかりと議論し、まとめて対応していく必要があるのかなと思います。

過去の西高の最初的时候には、西高自体でも署名活動していたのと並行して、市P連主催で反対集会を開くということで、これについては教育委員会事務局が中心となって段取りをしてもらって、1,000人規模ぐらいの集会を行いました。そういった動きもあるのかなのか、これからだと思いますけども、対応をよろしくお願ひしたいと思います。○加藤学校教育課長 集会などについては議論されていませんけれども、情報では西高のPTAが署名活動を計画しているようです。日々協力しながら、署名活動について行いましょうということで、14日の会議には終了しております。

○武蔵委員長 今後いろんな動きがあると思いますので、引き続き報告受けながら対応していきたいと思います。そういうことで、報告として終わらせていただきたいと思います。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○武蔵委員長 それでは、今日は、審議・協議事項ございませんので、その他に移ります。委員の皆さまからなにかございますか

(「ありません」という声あり)。

○武蔵委員長 特にありませんか。

なければ事務局のほうから、その他お持ちの方いらっしゃいますか。

(「ありません」という声あり)。

○武蔵委員長 それでは、7月の定例会の日程ですけども、第3火曜日は7月19日ということになってます。私、午後から別の用務が入ってまして、7月20日に変更していただけだと思うんですけども、時間については14時からということで、お願ひしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

それでは来月の定例会については、7月20日水曜日、午後2時からこの会議室ということでお願ひします。では、よろしくお願ひします。

なければ、以上をもちまして第6回教育委員会定例会を終了させていただきます。

どうもご苦勞様でした。

午後4時18分 閉会

岩見沢市教育委員会会議規則第15条の規定により、ここに署名する。

署名委員